



有限会社本郷工業
 [草津施工管理本部]
 〒520-0058 滋賀県草津市野路東 6-3-4 プレジオ 3 1F
 TEL.077-566-8200 FAX.077-566-2234

[近江八幡営業所]
 〒523-0893 滋賀県近江八幡市桜宮町 206-23 プレジオ 5 5F
 TEL.0748-43-2117 FAX.0748-43-2118

MAIL.hongo@pop.biwako.ne.jp HP.www.hongou-i.jp

我が社のニューフェイス
 みなさまどうぞよろしくお願ひします

2017



くぼ ふみや
 久保文哉
 現場代理人見習い

一日でも早く
 現場代理人になれるよう
 頑張ります！



こばやしよしのり
 小林義典
 現場代理人見習い



おおたに まゆみ
 大谷真由美
 マネージャー

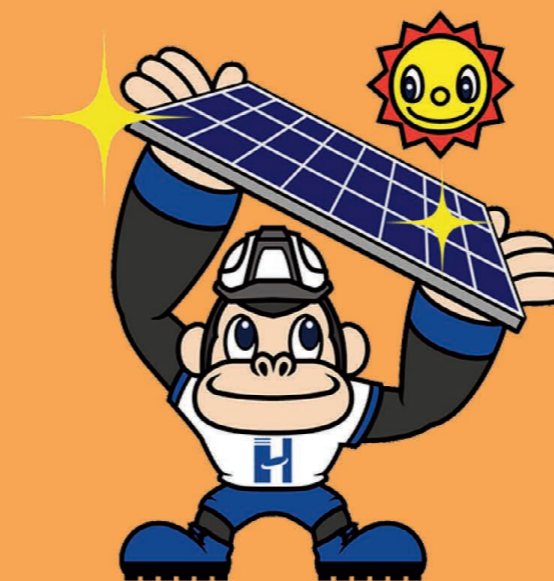


うがい まい
 鵜飼麻衣
 草津事務所勤務



くぼ ゆきこ
 久保雪子
 近江八幡事務所勤務

日本初・追尾式太陽光発電システム
 ついにキャラクターが名前決定！



ゴリスUN



たくさんの応募の中から、太陽が大好きで
 力持ちな僕にとってもぴったりの名前が
 決定いたしました！
 ご応募いただいた皆様、本当にありがとう
 ございました。今後とも、僕“ゴリスUN”を
 どうぞよろしくお願ひします！！

現場からいつかは経営に

私を信じて挑戦させてくれた会社



現場代理人
谷口忠史 (29歳)

27歳で十年表彰をもらった本郷工業では古参の現場代理人。現場での仕事をこよなく愛する谷口だが、本郷工業で十年以上働いた今、新しい目標を掲げている。「いつかは『経営』に携わっていききたい」。本郷工業との出会い、基礎工事部門の責任者としての仕事のこと、家族のことを聞いた。

人生の転機 本郷工業に

本郷工業が現場代理人制度をスタートする直前の時期に、谷口は本郷工業の社員になった。23歳のとき。結婚して四年目。娘が二人いた。「社会保険にもきちんと入りたかった」。社長の本郷智也に「社会保険にしてほしい」と頼んだ。「それなら社員になれ」と答えが返ってきた。本郷工業との付き合いは17歳の頃にさかのぼる。十代半ば、谷口は荒れていた。やることもなく家にいた頃、遊びに来た友



達に母が言った。「仕事に連れていったって」。友達が働いていた土木会社で働くことになった。その会社が本郷工業の仕事

を請けていた。そこで初めて社長の本郷と出会った。そして数年後、人生の転機は訪れた。

会社は信じてくれた

「仕事はできる親方だったが、親方の言うことが嫌になって」前の会社を辞めた。しかし、現場での仕事は好きだった。自分に合う仕事と想っていた。本郷社長に誘われた。毎月固定で仕事を請けるようになっていた。入社後は、即戦力として現場代理人として一人前の仕事を任せ

られた。「何でもやってやろう」。そんな気持ちで本郷工業に入った。やはり現場の仕事は苦じゃなかった。図面の見方を勉強中の自分に、会社は「頭はつってやってみろ」と現場を任せてくれた。「会社は私を信じてくれた」。これまでない喜び、やりがいを感じ、本郷工業での仕事は教えてくれた。

瀧本との出会い、夢への伏線

仕事にやり甲斐を感じていた頃、現場代理人(当時、現顧問)の瀧本和夫に出会った。一年間、瀧本の下で店舗の基礎工事を覚えた。瀧本は現場だけでなく、見積もりや経費など、お金のこ

とも教えてくれた。売上、コスト、利益。現場での仕事とお金のつながりが新鮮だった。「当初は現場代理人の仕事に悩むこともあったが、しんどいとは思わなかった。よその会社なら、一生、現場作業だけで終わる。本郷工業の現場代理人は、現場をこなしながら、お金の計算を身に着けることができる」。この経験が夢への伏線となった。

部下は外国人 成長嬉しく

今は、住宅地を主に基礎工事部門責任者としてベトナム人実習生のレーズイ・トゥエン(21)を連れて現場に入っている。住宅の基礎工事はミリ単位で仕事の質が決まる細かい作業が大切な現場だ。コンクリートの固まる時間にも追われる。

コンクリートを打つ下地を作る「掘削」では、碎石を平らにならすことが難しい。現場の土が柔らかいと下地が沈む。「それも計算に入れて作業しないと平らにできない。平らでないと後々、自分たちの作業が大変になる」。ベトナム人実習生に、碎石をきれいにならすように伝えても「大丈夫。何が悪いかわからない」と返って来る。言葉の壁もあり、うまく説明できないときは、つい頭ごなしに叱ることもあるが、「嫌いで言っているんじゃないから」と、仕事が終われば自分から歩み寄るフォローも忘れない。意思疎通が難しい分、実習生からは学ぼうとする姿勢を感じる。「日々、成長している姿がうれしい」と思

現場からいつかは経営に

元々から現場が好きだった谷口の目標は「経営に携わっていい仕事をできるようになりたい」。滝本と一緒に過ごした一年は谷口の視野を広げた。そのためにも、☆(ワンスター)から☆☆(ツースター)、☆☆☆(スリースター)へと階段を上っていくつもりだ。

家族への想い 胸に秘め

本郷工業に入社したころに母親が、昨年父親が病気で他界した。わけあって今は三人の子供たちとも離れて暮らしている。それだけに「家族」への想いは強い。今年のお正月、お父さん離れたらと思っていた小学校四年生の長女が「手をつないでくられた」と、目じりを下げた。プライベートにも夢がある。「いずれは近くで、子供たちの成長を見守っていききたい」。



NEXT PRESS

若手現場代理人として活躍する佐藤守(31)です。ぜひ、次号をお楽しみに!

HONGO PRESS とは

「人こそ会社の財産、文化、未来」これは弊社の信念です。縁あって弊社で働いている社員ひとり一人の姿、人となりをみな様に紹介することは、弊社の姿をみな様に知っていただくことと同じです。その役割をこのプレスは担っています。

筆者紹介:住田崇(すみだ たかし)元京都新聞記者。民泊管理運営代行・WEB制作会社(株)スタートレック KYOTO 代表取締役。京都市在住。

The key person for Tadashi Taniguchi



瀧本和夫 (68)
顧問

やんちゃな見た目とは違い、人柄は本当に優しく、一年一緒に仕事をして親子のように感じている。住宅の基礎工事はミリ単位で精度が必要な仕事。谷口の仕事ぶりはとてもきちょうめんで丁寧。自分が納得いくまできちんと仕上げる姿に接してきて、仕事仲間として信頼をしているし、これからも応援していきたい。

本郷工業の主要五部門

現場代理人が責任を負う本郷工業の事業は主に五部門ある。宅地造成・農地整備解体工事・基礎工事・外構工事。谷口は基礎工事部門の責任者として現場をまとめている。今はベトナム人実習生に、基礎工事技術、ノウハウを教えながら、日々現場で奮闘している。